

01 株式会社 吉野機械製作所

画期的な製品の開発と積極的な AI 導入 売上高100億円企業※を目指す産業機械メーカー

※中小企業庁『100 億宣言』企業に登録

**2026 年、創業 78 周年の歴史を刻み、
国内外で高い評価を得ているグローバルメーカー**

1948 年創業。創業者の『ヤスリを持たせたら右に出るものはいない』という熱い職人魂からスタートした吉野機械製作所。『比類なき高精度』へのこだわりは脈々と受け継がれ、自社製品で世界に挑むグローバルメーカーへと進化を遂げた。プレス機械を中心に、それらを用いた自動省力化ラインの設計・製造・販売を行う産業機械メーカーである。現在は 3 代目の吉野友章代表取締役 CEO が、経営のトップとして現場の指揮を執る。

「2023 年に創業 75 周年を迎え、私が 3 代目の代表取締役 CEO に就任いたしました。当社は、プレス機械の中でも、プレスブレイキ、パネルベンダー等の汎用機やオーダーメイドの専用機を得意として、お客様の要望に幅広く応え、国内外の顧客から高い評価を得ています」。

吉野機械製作所のプレス機械は、キッチンシンクやスチール家具、白物家電など住宅設備の部品加工や、自動販売機の筐体、ドア枠などの大型で精密な曲げ加工、さらにハイブリッド車、EV モーターの内部部品の打ち抜き加工を行うノッチングマシンなど、私たちの生活に欠かせない身近なモノづくりを支えている。特に“AC サーボプレスブレイキ (YSP シリーズ) ”、“パネルベンダー



最新設備を備えた第3工場が2025年5月に竣工



高精度な自動化ソリューションを世界に向けて強力に発信します。

(BENDRA シリーズ) ”は業界トップクラスの性能を誇り、“完全自動曲げシステム (YSP-R) ”は板金加工の常識を覆した唯一無二の画期的な製品である。

「“AC サーボ駆動式のプレスブレイキ (YSP シリーズ) ”は他社に先駆け開発に着手し、製品化に成功して、従来の油圧方式のプレス機にとって代わり、着実に実績を伸ばしております。2026 年に特許を取得しました。テコの原理を応用しモーターを小型化して大型の電動駆動のサーボプレスブレイキを完成させた機械です。電動サーボ駆動で世界初クラスとなる 400t × 6m を実現 (当社調べ)。油圧プレスにより消費電力を 1/4 に削減し、カーボンニュートラルに大きく貢献した当社の主力製品になります。

当社は 2000 年にサーボドライブパネルベンダー (YSB シリーズ) を市場に投入しました。その技術的系譜を受け継ぎ、現在は海外パートナーとのグローバルサプライチェーンを活用し、高い品質と優れたコスト競争力の両立を目指す新シリーズ『BENDRA シリーズ』を展開しています。非常にハイテクノロジーな製品ですので、なかなか模倣が難しいという点から世界的に見ても競合他社の少ない機械で、海外企業と協業しながら低コストでの開発を進めているところです。

さらに当社の最先端技術と独自開発のソフトウェアを駆使して完成したのが“完全自動曲げシステム (YSP-R) ”です。イスラエルやシンガポールなどとの国際協業によって開発したソフトウェアでロボットの軌道生成を完全自動化し、これも世界初と思いますが、金型自動交換機能も搭載しています。“完全自動曲げシステム (YSP-R) ”は、海外の大学や企業、国内では慶應義塾大学のハプティクス研究センターと連携した Go-Tech 事業の一環として 2027 年から販売開始予定です。



完全自動曲げシステム (YSP-R)



吉野 友章
代表取締役 CEO

株式会社 吉野機械製作所

〒 267-0056

千葉県千葉市緑区大野台 1-5-18

TEL.043-312-5900

<https://yoshino-kikai.co.jp/>

新たなイノベーションへの取組みとして、 AI の導入や、ダッシュボードの社内採用を推進

弊社では、新たなイノベーションとして、“止まらない工場へ”を掲げ、AIを導入した『次世代メンテナンス AI 構想』に取り組んでいる。「当社では“YOSHINO AI”と呼んで、AI 導入を積極的に行っています。まずは自社工場内の工作機械を AI に学習させて、稼働状況や稼働率を出せるようにしています。“AC サーボプレスブレーキ（YSP シリーズ）”にも AI を実装させ、対話型メンテナンス支援として、作業者が AI に質問することで、エラー内容、点検手順、復旧方法を確認できる環境を目指します。



YOSHINO AI

AI は多言語に対応できるので外国人の人材サポートにも活用できます。また、IoT データを活用して、稼働状況や異常傾向を把握できる仕組みを構築する設備状況の見える化や、海外の遠隔地でもメンテナンスの不安を低減する保守体制の構築も目指しています」。

一方で、経営・工程・原価の見える化と

して、AI を導入したダッシュボードも開発し、自社の工場、事務所、設計室などに採用している。「売上・粗利・外注費・在庫などを一元把握できる経営指標の見える化、製番別・工程別の進捗や遅延要因を把握できる工程進捗の見える化、そして遅延・粗利・CL などの論点を対話形式で分析する AI による判断支援が行えるダッシュボードを社内に採用しています。自社のリアルな進捗や利益などを、オープンにすることで、社長だけでなく、全社員が参加する経営を実現したいと思っています。そして、そこから次の若いリーダーが誕生することも期待しています」。

中小企業庁『100 億宣言』企業に登録、 次世代製造業プラットフォームへの進化を目指す

2025 年より吉野機械製作所は、中小企業庁の政策の一環である『100 億宣言』企業に登録している。

『100 億宣言』とは、中小企業が飛躍的成長を遂げるために、自ら『売上高 100 億円』という経営者にとって野心的な目標を目指し、実現に向けた取組みを行っていくことを、宣言するものである（中小企業庁 HP より）。

「実際の成長戦略としては、先ほどご紹介した“パネルベンダー（BENDRA シリーズ）”を、2026 年 10 月にドイツ・ハノーバーで開催される EuroBLECH 2026、および米国・ラスベガスで開催される FABTECH 2026 に出展し、欧州・北米の両市場に向けて、次世代の板金加工ソリューションを展開していきます。また中国の企業をパートナーとしてグローバルな展開も図っていきます」。

『100 億宣言』企業へのメッセージとして、吉野 CEO は「我々は板金加工の現場における人材不足・技能継承の課題を解決し、持続可能なものづくり社会の実現を目指します。また、革新的な完全自動曲げシステムや、生成 AI × IoT による対話型メンテナンス AI の開発・導入を通じて、日本のものづくり企業の生産性と安全性を飛躍的に高め、グローバル市場に通用する技術革新を進め、社員一人ひとりが誇りを持ち、地域社会と共に成長しながら、2035 年を目標に、売上高 100 億円企業を実現していきます」と語る。

現在、拠点である“千葉から世界へ。製造業の未来を動かす”というスローガンとともに、板金加工機械メーカーから、現場・データ・AI・エネルギーをつなぐ、次世代製造業プラットフォームへの進化を目指す株式会社吉野機械製作所。3 代目の吉野 CEO の挑戦は続く。



SENFENG 社と共同開発した新型パネルベンダー『BENDRA-25』